

要 望 書

【平成26年度第1回定例会】

千葉県町村議会議長会

保健福祉行政の充実強化について

1 「総合診療医」の積極的な育成について

地域医療を取り巻く環境は依然として厳しく、中でも「医師不足」の問題は大きな課題と言える。

医師不足は地域的な偏在性のほか、診療科の偏在性もあり、軽度な患者の第三次救急医療機関への集中などが弊害として顕著になっている。

このような状況の解決策の一つとして、総合診療医の育成、普及が効果的と考えられることから、今後の保健医療計画見直しにおいて、総合診療医の普及、育成に向け総合診療医の位置づけを行うとともに、積極的な誘導策を講じるよう要望する。

2 地方自治体の病院運営に対する医師確保支援について

町立東陽病院では、医師不足が深刻な状況になっており、住民の求める地域医療が行えない状況にあるとともに、病院運営が非常に厳しい状況にある。

医師不足の現状は、抜本的解決がなされないまま深刻な社会問題となっており、閉鎖に追い込まれる診療科や病院だけでなく、地域医療が崩壊する危機的な状況も生じている。

住民の安全と安心を確保するために、地域医療を初めとする医療体制の整備には、何よりもまず安定した医師の確保が必要である。

については、地域医療体制が存続できるよう、地方自治体が運営する病院に対する医師確保支援を講ずるよう要望する。

商工労働行政の充実強化について

1 飲食業の施設（トイレ）の整備に係る県補助金の創設について

白子町は、テニスをはじめとしたスポーツリゾート地として、年間を通して多くの観光客を迎えている地域である。

近年は「発地型」から「着地型」へと観光の形態が変化してきており、各地域がそれぞれの魅力を伝えていくことが重要となっている。地域の魅力は観光資源であることはもちろん、それ以上に必要なものは「おもてなし」の力であり、町では、その受入体制の強化を図るため、観光客の多くが利用する飲食店に着目し、その支援を進めている。

「B1 グランプリ」が盛り上がりを見せているように「食」は地域イメージの大部分を占めており、これを担う地域の飲食店に対するおもてなし向上施策を早急に創設し、より魅力ある観光地を目指したまちづくりの推進が必要である。

については、「がんばろう！千葉」を合言葉に、震災前以上の「観光立県ちば」を確立するため、次の事項の実現について要望する。

- (1) 「観光地魅力アップ整備事業」制度中、多くの観光客等が使用する個人経営の飲食店等が行うトイレの整備についても補助対象とすること。
- (2) 「観光地魅力アップ整備事業」の対象とすることが難しい場合は、地域の「おもてなし」に対するソフト・ハード事業に対する商工振興施策としての補助制度を創設すること。

県土整備行政の充実強化について

(道路)

1 成田国際空港を拠点としたアクセス網整備について

成田国際空港は、年間発着枠を30万回に拡大し、昨年3月にはオープンスカイが実現したことにより、今後も国際拠点空港として更なる飛躍が期待されている。

空港のポテンシャルが増大する一方で、これまで飛躍的に増加してきた旅客数や貨物量を背景に、空港周辺道路への負担も増大し、特に空港東側の地域は、西側の地域に比べインフラ整備が遅れており、空港を拠点としたアクセス網の整備が急務となっている。

については、次の事項について適切な措置を講ずるよう要望する。

- (1) 国道296号の四車線化
- (2) 県道成田小見川鹿島港線の排水歩道整備
- (3) 県道成田松尾線の多古町側への延伸整備
- (4) 空港東側から空港内への進入路の整備
- (5) 首都圏中央連絡自動車道の早期整備促進
- (6) 成田財特法の延長及び新規事業の追加を考慮した「成田国際空港周辺地域整備計画」事業の推進

2 一般県道大里小池線の歩道整備について

一般県道大里小池線は、主要地方道成田松尾線に次ぐ芝山町第2の生命線となる路線であるが、歩道については大部分が未整備である。特に危険地域である小池6地区と浅川地区から国道296号間の一刻も早い歩道整備を要望する。

3 地域高規格道路茂原一宮道路(長生グリーンライン)の整備促進について

地域高規格道路茂原一宮道路(長生グリーンライン)は、長南町から茂原市間の約7.2キロメートルが整備区間となり整備を進め、圏央道の開通に合わせ国道409号と圏央道茂原長南インター間が供用開始となった。しかしながら残りの区間は事業の進捗が遅れており、さらに、茂原・一宮間の約4キロメートルは未だ調査区間であり事業に着手していない。外房地域の活性化を図るためには、本道路の果たす役割は大変重要であり、圏央道と一体となって双方の機能が最大限発揮されると考える。

については、茂原・一宮間を整備区間に指定し、全線開通に向け、整備促進を図るよう要望する。

4 一般県道南総一宮線水沼地先の改良促進について

一般県道南総一宮線の長南町水沼地先は狭隘で、一部の区間、大型車は待避所による交互通行となっている。また、県道と沿道隣接地との高低差が大きいため、見通しが悪く、通行上極めて危険な状況で、平成23年には、崖地の崩壊により、通行止めを余儀なくされた。

この道路は、首都圏中央連絡自動車道の市原鶴舞インターチェンジと茂原長南インターチェンジを結ぶ一般道路として、首都圏中央連絡自動車道の整備効果を地域に波及させる重要な役割を担う道路となる。

については、市原側は既に整備が完了し、長南側の改良の用地については、概ね確保はされている路線でもあるので、市原・南郷トンネルを含む道路改良の早期整備を要望する。

5 県道の整備促進について

一般県道勝浦布施大原線は、山間部において、当町と近隣市を接続する重要な路線であるが、歩道整備等においては一部の区間で未整備であり、児童の登下校等において、非常に危険であるため、交通安全対策の充実に向けた歩道整備及び、広域ごみ処理施設建設に向けた、搬入道路としての山間部の狭隘箇所の特幅改良について早期の工事着手を要望する。

また、一般県道勝浦布施大原線バイパスについては、夏季の渋滞緩和対策及び地域経済活性化に有益な事業であり、御宿町において既に取り付け道路を完成していることから、早期に取り組みられるよう要望する。

(河川・海岸)

6 二級河川一宮川水系瑞沢川及び長楽寺川改修の早期完成について

河川は、流域に住む人たちに、豊富な水資源や自然環境、水辺空間など、恵みと潤いを供与しているが、反面、台風や豪雨の際は、洪水などの災害とも隣り合わせで、何にもまして尊い人命や財産が脅かされる恐れがある。

二級河川瑞沢川改修の用地確保については完了し、二級河川長楽寺川改修の用地については、概ね確保されていることから、一日も早い安心・安全な地域づくりのため、計画的かつ継続的に河川改修を推進し、治水安全度を高めるよう要望する。

7 九十九里沿岸の津波対策について

津波等の自然災害の防災対策の観点から、想定される津波に対応した土塁の構築及び海岸保安林整備並びに二級河川一宮川の津波遡上対策としての堤防嵩上げの早期完了を要望する。

また、二級河川一宮川河口付近の堆積土砂の撤去についても実施されるよう要望する。

教育行政の充実強化について

1 史跡本佐倉城跡の保存整備について

本佐倉城跡は戦国時代に千葉氏の居城として築城され、今なお戦国時代の形状をそのまま残す重要な城跡である。平成10年9月に中世城郭として、千葉県では最初に国史跡に指定され、現在、城跡の所在する酒々井町・佐倉市では「史跡本佐倉城跡整備実施計画」に基づき、整備事業に着手するための事前発掘調査や遺跡の保護を目的とした環境整備を、国・県の補助事業として実施し、今後も整備復元事業規模の拡大・指定地拡大の計画を検討している。

文化財の重要性、価値は一市一町のものではなく、広く県民の大切な資産でもあるため、当町のような財政規模の小さい町にとって、事業の実施は大きな財政負担を伴うため、手厚い補助金がなければ、事業実施を断念せざるを得ない状況である。

重要な史跡に対する十分な保護措置等の事業を、円滑かつ継続して進めるためにも、県からの補助率をアップした補助金交付を要望する。

2 千葉県立「房総のむら」の拡充について

千葉県立「房総のむら」は、昭和61年4月1日に開館し、その後北側地域の工事が平成4年に完了して以来、体験博物館として観光面でも貴重な施設となっている。

一方、現在の観光は、観光客のニーズが多様化し、人とのふれあいや体験して遊ぶという体験型の人気が高まっており、時代に合致した本施設は、町の期待も大きいところである。

こうした中、成田空港に近い当施設は、県の国際観光の大きな目玉の一つとなる可能性を持っていることは、誰もが認めるところと考えている。

については、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を迎えるにあたり、魅力ある国際観光スポットとなるよう、訪日外

国人の方々に人気がある「武家屋敷の増設」とともに「日本庭園」、
「千葉の食事と日本酒が楽しめるレストラン」などを設置し、その
施設の規模も拡充するよう要望する。